

# 一般 質問

令和5年 12月定例会



## 地球温暖化対策は

景山 登美男 議員

本町は本年3月、国内で82番目の地方公共団体として、2050年の温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言した。現在策定中の「飯南町地球温暖化対策実行計画」では、町民にどう関わってもらうのか、何に取り組んでもらうのかが明確になつていない。脱炭素社会の実現は、町民・事業者・行政が一体となつて取り組むことが必要である。日常生活で使用するエネルギーを見直すことが、脱炭素社会化につながるという観点から、町民に求める取り組みを問う。

### Q 町民に何を求める

## 任期最終年での進捗は

高橋 英次 議員



### Q 町政の方針を問う

令和3年度第2回飯南町議会での所信表明では、町政運営の基本姿勢が述べられている。「小さな田舎からの生命地域宣言」の基本理念を基にしたまちづくりを引き継ぐ。「第2次総合振興計画後期計画」に掲げた事業を確実に進めていく。「守らなければいけないもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」を整理していく。と述べ、続いて5項目の重点目標を掲げている。  
①「子どもたちの声が聞こえるまちづくり」  
②「安心安全なまちづくり」  
③「産業が元気なまちづくり」  
④「定住を進めるまちづくり」  
⑤「歴史・文化を感じるまちづくり」  
前半4項目においては、総じて率先に事業が推進されているが、5番目の「歴史・文化を感じるまちづくり」については、少し取り残されていると感じる。

いると感じる。

1期4年の集大成として「守らなければならぬもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」を含め、これからの町政の取り組みと方針を伺う。

### A 目標達成に全力で

町長塚原隆昭

就任時に述べた「守らなければいけないもの、伸ばしていくもの、そして見直しや縮小廃止するもの」は、まちづくりの指針である「第2次総合振興計画後期計画」を着実に進めるため、財政規律を



衣掛山から望む庁舎周辺

守りながら事業の取捨選択・優先順位をつけていくとの思いからの発言であった。公約の5つの重点施策が、守るべきもの、伸ばしていくものとして力を入れてきた。廃止・縮小では2課を減らし、まちづくり推進課を設け、内室を設置し、行政組織のスリム化を図った。

現在、公共施設総合管理計画に基づき、指定管理施設の廃止・譲渡を進めているが、廃止・譲渡見直しは積極的には進めることができず、廃止縮小の難しさを改めて感じている。

指摘があった「歴史文化を感じるまちづくり」では、本物の芸術文化に触れる機会を増やし、受け継がれてきた有形無形の文化財の再認識と、匠の技術を後世にしっかりと引き継ぐとの思いで進める。

残り1年、コロナや災害を理由に「できなかった」と言い訳しないよう、目標達成に向け、ラストスパートを全力で努力する。

### A 機運を醸成

町長塚原隆昭

現在、策定委員会で議論している最中で、新たな取り組みについて示すのは難しい。アンケート調査では、8割以上の方が「地球温暖化に関心がある」という回答であった。このことから、誰もが「やらないといけない」と思うような取り組みを早い段階で示し、機運の醸成に努めたい。

### Q 避難所へ発電機を

飯南町地域防災計画においては16カ所の避難所が指定され、食料・飲料水・ベッドや毛布などの備蓄物は整備されているが、非常用電源施設が整備されているのは、ごくわずかである。備蓄物資の中には、4台のガソリン式発電機があり、災害時の電力確保のための協定書も交わされている。しかし、予期せぬ事態で建物への電力供給が停止した場合、これだけでは十分な電力の供給はできないと思う。

せめて、地区に1カ所程度、町内の主要な避難所に非常用発電機の設置を求める。

### A 優先順位つけ整備

町長塚原隆昭

現在、保健福祉センター、さつき会館および来島交流センターなどの避難所や、本庁舎、病院に非常用発電機を設置している。また、国交省において赤



来・頼原両道の駅に、防災拠点機能強化のための自家発電装置が設置されている。非常用電源が整備されていない施設の電力は、複数の企業との災害時協力協定により確保している。

なお、交流センターとんぼらには太陽光パネルが設置してあるので、災害時の非常用電源としては、それにより蓄電した電力を供給できる。まだ設置されていない施設は、優先順位をつけ整備する。

脱炭素宣言

